

# 見よ、神の小羊

BEHOLD THE LAMB



デイビット・カン

# 見よ、神の小羊

デイビット・カン



# 目次

## Contents

はしがき 聖所	1
I. 聖所とわれわれの運命	5
II. 聖所に関する最初の幻	9
III. 義認の経験と聖化の始まり	14
IV. 聖所：聖化の経験	54
V. 至聖所：印する経験	74
VI. 罪の除去	94
VII. 最終世代である十四万四千	102
VIII. 聖所のメッセージの結論	115



# はしがき

## 聖所：

### 救いの唯一の青写真〔詳細計画〕

なぜ、キリストの再臨は、これほどまでに遅れているの  
な だろう？なぜ、義認や聖化に関して、これほど多くの  
異なる教えがあるのだろうか？だれの定義づけが正しい  
のだろうか？イエスの人性は、本当に私たちの人性と同じもので  
あったのか？私たちは、罪を完全に克服することができるのか？  
救いの計画を、もっとはっきり知る方法はないものだろうか？  
クリスチャン品性の完成とは、どのような意味があるのか？ま  
たそれは、現実的な目標となり得るのだろうか？

これらの疑問は、今日のクリスチャンたちが、地上歴史の最  
終局面に生存していることを悟るにつれて、ますます聞かれるよ  
うになっている。栄光の神にお会いし、永遠の命に入ろうと思  
うならば、これらの疑問が解かれねばならない。これらの疑問は、  
ひとつの根本的な質問に要約され得る。すなわち、永遠の命を  
相続するために、私は何をしなければならないか？との質問で  
ある。

この世界を贖うため、また宇宙の安寧秩序のために神が立て  
られた計画は、聖所の中にあらわされている。聖所とは、モーセ  
と古代イスラエル人に神が建立させた幕屋のことである。聖所で  
は、神が罪の問題をどのように扱い、解決なさるかが描かれてい  
る。救いに至る道は、ひとつしかない。神のご計画において、人を、  
エデンにいたときの状態に回復させる道も、ひとつだけである。

聖所の構造と儀式〔祭式〕をとおして、なされる必要のある事柄が正確に示されている。が、聖所の背後にあるものの意味を理解するには、罪が世に侵入したときに起こったことを理解しなければならない。アダムは、神の宮となるべき者として創られた。神は、アダムをはじめ、自らお創りになったすべてのものの内に住もうとなさった。

「輝く聖なるセラフから人間にいたるまで、すべての被造物が創造主の内住される宮となるのが、永遠の昔から神の目的であった。罪のために人間は神の宮となくなかった。人の心は、悪のために暗くなり、けがれたものとなったので、もはや聖なる神の栄光をあらわさなくなった。しかし神のみ子の受肉によって天の神の目的は達成された。神は人類の中にお住みになり、救いの恵みを通して、人の心はふたたび神の宮となる」(各時代の希望上巻 186 ページ)。

魂の宮に住まわれる聖霊が、罪に打ち勝つ力を私たちに与えられる。アダムは罪を犯し、悪に抵抗する力とともに、この貴重なご臨在を失った。贖いと回復のための神のご計画は、聖霊が再び私たちの内に住まれ、神のみかたちに回復させるために、魂の宮清めを可能にするものである。これこそ、魂の渴望を満たしてくれる福音であり、これに匹敵する福音はほかに存在しない。パウロはこの福音について、代々にわたってこの世から隠されていたが、今や神の聖徒たちに明らかにされた奥義、すなわち私たちの内にいますキリストであり、栄光の望みであると記述した。

聖所の儀式は、罪の償いよりもはるかに多くのことを例証している。まず、人がいかに回復され得るかを示しているが、その点が欠けていたら、すべては無益である。罪という病の治療

法と、それに伴う条件を、すべての人が見て理解できるようにと、神は完全な図案を広げられたのである。

神の残りの教会において、聖所の教義がしばしばおろそかにされ、その重要性を否定する者さえ現れるありさまである。たとえ研究がなされても、しばしば誤解また曲解され、そのために教会は方向性を見失い、真理から遠く離れてしまっている。教理の点で、今ほど大きく混乱した時代が、かつてあっただろうか？今となっては、いったいどの教理が、私たちが他教派から区別させるのか？安息日も再臨の教義も、それだけで私たちがセブンスデー・アドベンチストとはしてくれない。セブンスデー・アドベンチスト教会が創立される前から、安息日を守る人たちはいたし、キリストの再臨のメッセージも宣布されていた。しかしながら、聖所の教義は、最終時代の残りの民に与えられた、神からの特別なメッセージなのである。聖所を理解して初めて、私たちはセブンスデー・アドベンチストとなるのである。二千三百日の預言が、かつての再臨運動の発端となったが、先駆者らに聖所の教義を理解させたのも、二千三百日の預言であった。この預言が、彼らを至聖所とそこにおられるイエス・キリストへと導き、さらに三天使の使命の重要性と、最終時代における各使命の特別な責務を理解させたのであった。恩恵期間が閉じる前に、私たちは、キリストが来られるとき天に移される用意ができていなければならない。そしてそのためには、キリストの栄光を完全に反映していなくてはいけないのである。また私たちは、恩恵期間が閉じる前に、世の人々に警告しなくてはならない。セブンスデー・アドベンチスト教会は、実にこの目的のために存在させられたのである。

救いに関する誤解という黒雲が、広くこの世界を覆っている。その結果、数えきれないほど多くの人々が、偽りの教えを信じて滅びるであろう。この時のために、神は私たちをお召しになり、すべての国々と人々に永遠の福音を宣傳伝えさせようとしておられるのである。この永遠の福音は聖所をとおして明示されており、これこそが唯一の福音である。聖所の正しい理解は、先

述した「永遠の命を相続するために、私は何をしなければなら  
ないか」との質問にたいする明確な答えを与えてくれるだけで  
なく、セブンスデー・アドベンチスト教会と私たちとの関係をも  
定義づけてくれるであろう。

「聖所問題が、1844年の失望の秘密を解くかぎであっ  
た。それは、互いに関連し調和する真理の全体系を明  
らかにし、神のみ手が大再臨運動を導いてきたことを  
示し、そして、神の民の立場と働きとをはっきりさせて、  
今なすべきことを明らかにした」（各時代の争闘下巻  
138 ページ）。

# I. 聖所とわれわれの運命

1844年、キリストの再臨を宣布し、大宗教リバイバルを呼び起こした再臨信徒たちは、信心深い人々であった。「使徒時代以来のすべての大宗教運動の中で、1844年秋の運動ほど、人間の不完全さとサタンの策略に妨げられなかったものはない」(大争闘下401)。彼らは、自らの心を吟味しへりくだらせ、世への愛着をすてた。そして、神に是認されているという確証を第一に求めた。毎朝、神から認められているとの確証が得られるまでは、食べ物を口にしなかった。主をお迎えし、死を味わわずして天に移される用意ができていた民がかつていたとしたら、それは彼らであった。にもかかわらず、次のような興味深い引用文がある。

「しかし、人々は、まだ主に会う準備ができていなかった。まだ、彼らのためになされねばならぬ準備の働きがあった。彼らは、まず光を受けて、天にある神の宮に心を向けねばならなかった。そして彼らが、そこで奉仕しておられる彼らの大祭司に、信仰によって従っていくときに、新しい義務が示されるのであった。もう一つの警告と教えの使命が、教会に与えられるのであった」(各時代の争闘下巻 140 ページ)。

再臨運動の先駆者たちは、まだ主の再臨の備えができていな

かった、というのである。新たな責務を明らかにするために、新しい光が啓示される必要があった。

「天の聖所におけるキリストのとりなしがやむとき地上に住んでいる人々は、聖なる神の前で、仲保者なしに立たなければならない。彼らの着物は汚れがなく、彼らの品性は、血をそそがれて罪から清まっていなければならない。キリストの恵みと、彼ら自身の熱心な努力とによって、彼らは悪との戦いの勝利者とならなければならない。この働きは、黙示録 14 章の使命の中にさらに明瞭に示されている。この働きが成し遂げられると、キリストの弟子たちは、主の再臨を迎える準備ができるのである」（各時代の争闘下巻 140－141）。

つまり、神の民の側で、主に会う備えができていないために、イエスはおいでになれないのである。キリストがおいでになる少し前に、恩恵期は閉ざされる。その時、天に仲保者がおられなくても罪なくして生きられるほど徹底的に清まっている民、罪との戦いにおいて絶えず勝利できるほどの品性に到達した民が、現れねばならない。

裁きの大いなる日の後、これまで地上に生存したすべての人の運命が決定される時、仲保の働きは止む。イエスは天の法廷（聖所）を出られ、勝利のうちにご自分の民を迎えにいくための衣装をまどわれる。地上で彼をお迎えする民は、罪に打ち勝つ力を与えてくれる聖霊に満たされる。この間、もはや彼らが罪を犯すことはないであろう。

そのころ、神とサタンとの最後の戦争が始まる。この戦いにおいて、すっかり堕落した人間を、従順な新しい者につくり変えるという、福音の力が実証〔実演〕されるであろう。この善

と悪との大争闘は、全世界また全宇宙の前でくりひろげられる。しかしこれは、最終時代の神の民、すなわち女の残りの子らの準備ができるまでは、起こり得ないのである。

神の言葉の目的は、人を神のみかたちへと完全に回復させることである。このことが、聖所の儀式において明示されている。罪の赦しを受けるため、子羊を伴って聖所にやってくる罪人が最後に行き着くのは、至聖所である。そこで彼は、(契約の箱に納められた)十戒の前に出頭するのである。同様に、これらの儀式によって象徴された段階をとおして、神は私たちのうちにご自分のみかたちを回復なさり、御前で永遠に生きられるようにして下さるであろう。私たちが神のみもとに戻すことが、聖所の背後にある目的なのである。しかしながら、罪のうちにとどまっているならば、私たちは神を見ることができない。神のシカイナの栄光は、あらゆる罪を、罪人もろとも焼き尽くしてしまうからである。聖所の制度は、私たちの心のうちにある罪の問題を解決するための段階を示してくれる。聖霊に全く屈服した民だけが、神の栄光と戒めの前に立つことができるようになるであろう。

歴史上の最後の大きいなる戦いにおいて、このように備えをした者たちだけが、この大戦すなわち迫害と試練を耐え抜くであろう。聖霊の力を注がれた彼らは、出て行ってみことばを宣べ伝えるのである。ついには、全世界が真理の大きいなる叫びを聞くであろう。全地が騒乱状態に陥るとき、福音のメッセージが地の果てまで宣布されるであろう。全宇宙が、真理のメッセージを聞くであろう。各人が自らの運命を決定し、こうして福音の働きは完成するのである。現在のところ、一日に千人から千五百人ほどの人々がアドベンチスト教会に加わっているが、一日に生まれる赤ん坊の数は三十三万にもものぼる。私たちは、自分たちが福音を宣布している速度と、現在の教会の状態を再評価すべきではないだろうか。現在の世界人口増加率にかんがみると、どんなに努力をしても、キリストの来臨に世界を備えさせることはできない。

私たちは、どうやって主の来臨を早めることができるのか？

私たちは、再臨を待望する民の畑〔領域〕に、大雨を嘆願しなければならぬ。後の雨が降らなければ、自らの召命を果たすことはできない。なぜ私たちは、民として、約束された後の雨を受けていないのだろうか？確かな神の言葉とホワイト姉妹の証は、聖所をさし示している。神に全く降伏し、全世界の前で神とそのご計画を擁護する民を通して、真の救いがいかに遂行されるかを、聖所は詳しく説明している。さらにすべての人々を、神の聖所へと招いている。

「神よ、あなたの道は聖所にあります」（詩篇 77：13  
—欽定訳）。

「また、過去の経験は主の導きによるものであると、堅く信じた人々もあった。そして、彼らが、神のみ心を知ろうとして、待ち、見守り、祈ったときに、彼らは、彼らの大祭司が、奉仕のもう一つの業を始められたのを知った。そして彼らは、信仰によって彼に従っていき、教会の最後の働きをも知るに至った。彼らは、第一と第二天使の使命を、いっそう明瞭に理解した。そして、黙示録 14 章の第三天使の厳粛な警告を受けて、それを世に伝えるよう準備させられた」（各時代の争闘下巻 149 - 150）。